初期クェーカーの階級構成について

山　本　　通

I

初期クェーカー[1]の階級構成については，従来から定説があり，この定説が誰の目にも明らかに見えたためか，莫大な資料が残存するにもかかわらず[2]，実証的な研究が極めて貧弱であった。しかし，実証研究もいくつか見られるのであって，Taylor および Raistrick の実証分析[3]をうけて成された Cole の実証分析[4]は，従来の定説を理論的にも実証的にも大幅に深化させたものであり，以後の Barbour やわが国の研究者たちの初期クェーカー研究[5]も，いずれも Cole の分析をふまえて成されている。

ところが，ごく最近 Vann が Cole の分析を，史料批判および史料操作に関し徹底的に批判しつつ，莫大な史料群を駆使して，従来の定説を全く覆す新

(1) 便宜上，創始者 Fox が伝道を開始した1649年から，Fox が死去した1691年までを，初期クェーカーと名づけておく。

(2) Josiah Newman, "The Quaker Records", *Some Social Studies in Genealogy*, p, 41. を参照されたい。

(3) E, E, Taylor, "The First Publishers of Truth, a study", *Journal of the Friends' Historical Society*, vol. XIX, (1922); *id., The Valiant Sixty*, London. 1947., pp, 39—75.; A, Raistrick, *Quakers in Science and Industry*, London. 1950., pp, 27—32.

(4) Alan Cole, "The Social Origins of the Early Friends", *Journal of the Friends' Historical Society*, vol, LXVIII, (1957)

(5) Hugh Barbour, *The Quakers in Puritan England*, New Haven and London, 1964.,; 田村秀夫『イギリス革命思想史』，創文社，1961年，第四章・第五章。浜林正夫『イギリス革命の思想構造』，未来社，1966年，第四章。

説を発表した。[6]

本稿の目的は，初期クェーカーの階級構成に関する研究史を俯瞰し，現在の論争点を洗い出し，かつ，その主要な矛盾をつきとめ，最後に，今後いかなる方向に研究が進められるべきかを理論的に明らかにすることである。（実証的な研究は日本に在っては不可能である。）

Ⅱ

初期クェーカーの社会的地位についての観察者たちのイメージは，ほぼ単一のものであった。例えば，初期クェーカーにあって唯一の体系的神学書『弁明』を著わした Robert Barclay は，本書の中で，しばしばこの点に論究しているが，彼にとっては，クェーカーは一般に poor で mechanic で illiterate なのであった。[7] また，創始者 George Fox は，その『日記』の中で，クェーカーの商人は以前は世間から忌避されていたが，後にその取引における公正・正直が認められ，商売が繁じょうしてきた由を記している。[8] 更に，18・19世紀において成功した企業者たちのうちに，多くのクェーカーが数えられるのも，周知の事実である。[9] 従って，クェーカーはその勃興期においては一般的に貧しく，後にそのうちから階級上層してゆく部分があったという見方は，一般に定

(6) Richard T. Vann, "Quakerism and the Social Structure in the Interregnum", *Past and Present*, No. 43, (1969) *id.*, *The Social Development of English Quakerism* 1655—1755, Cambridge, Massachusetts, 1969.

(7) Robert Barclay, *An Apology for the True Christian Divinity*, &c., Philadelphia, n.d., pp. 6, 11—12, 130, 297—298, 530., なお原書は1676年にラテン語で，1678年に英語で，共に Amsterdam で出版された。

(8) George Fox, *Journal*, everyman's edn., 1924, London. pp, 94—95. なお，この日記の由来およびその諸版については，浜林正夫，前掲書，p. 156, および，同書に付された著作目録，pp. XⅧ—XIX，を参照されたい。

(9) 「18世紀の前半期において，多分もっとも数が多く，確かにもっとも成功し漸進的な鉄工業主のグループは，クェーカーによって形成されていたグループであった。」(T. S. Ashton, *Iron and Steel in the Industrial Revolution*, Manchester, 1924., p. 213.) 鉄工業以外にも，金融業・鉱山業・鉄道業においても，多くのクェーカーの企業主の名が挙げられる。Cf, A. Raistrick, *op. cit.*

説と認められていたのであり，Bernstein のイギリス革命史研究や Raistrick の企業者史研究も，この定説を自明のことと見なした上で成されている。[10]

しかしながら，この定説を大量観察によって明らかにしようという試みは，ほとんど見られなかった。

Taylor の分析は，こういった類の最初の試みであった。[11] 彼は，Fox がその日記の中で，1654年のはじめに約60名の伝道説教者が南部への伝道を開始した，と記している事実に注目し，N. Penney が編集した初期の伝道説教者に関する記述の集成[12]から「勇敢な60人」とみなされる男女66名をピック・アップ[13]し，その職業分布を，<表1>のように提示した。[14]

<表1> 男 性 54名	数
Gentlemen	2
Yeomen	13
Husbandmen	17
Wage Earners	1
Millers	1
Craftsmen and Shopkeepers	8
Schoolmasters	4
Soldiers	2
Other Professions	2
Not ascertained	4

そして，Taylor はこの表から，第一に，「勇敢な60人」の大部分は農業・酪農業に従事していたこと，第二に，彼等の半分以上は，恵まれた経済状態にあったことを指摘した。[15] もちろん，我々はこのような漠然とした指摘には満足できないが，Raistrick は，この表に，他の断片的な資料を加えつつ，Taylor

(10) E. Bernstein, *Cromwell and Communism*, London, 1930, translated by H. J. Stenning. pp. 225—252.; A. Raistrick, *op. cit.*

(11) 以下では，Taylor, *Valiant Sixty*, *op. cit.* のほうのページ数を記す。

(12) G. Fox, *Journal*, *op. cit.*, p. 95.

(13) Norman Penney, ed., *The First Publishers of Truth*, London, 1907. わたくしは，本書を見ることが出来なかった。

(14) E. E. Taylor, *op. cit.*, pp. 42—44. なお，女性については省略した。

(15) *ibid.*, p. 74. もう一つ重要なことは，彼等の多くが副業をもっていたということであろう。

の指摘を次のように整理して提示した。すなわち，彼によれば，「初期フレンズは，……特にヨーマン層と職人層から多く引き出されたのであり，労働者階級や土地ジェントリーからはほとんど引き出されなかった。」[16]のである。

しかし，Taylor—Raistrick の分析における問題は次の点にある。つまり，伝道説教者たちの階級構成が初期クェーカー全体の階級構成を正確に反映しているという保証は全くないのである。

この欠陥をおぎなう試みは，A. Cole によって成された。彼は，各季会（Quarterly Meeting）の結婚登録簿に付された職業記載を利用しつつ，七つの地域[17]についての職業分布を，1688年までの史料を一括して表にあらわし[18]，これを検討した結果，次のような結論を得るのである。第一に，伝道説教者たちの場合とちがって，クェーカー全体の傾向としては，農業従事者よりも，商業・手工業従事者の数のほうが多いこと，[19]第二に，この点こそが重要なのだが，「初期フレンズは，主に都市と農村のプチ・ブル層 *petite bourgeoisie* から引き出された。」[20]ということ，つまり，初期クェーカーは，支配階級からもプロレタリアートからもほとんど引き出されず，中産層のうちでもより抑圧された階層から引き出されたのであり，初期クェーカーの政治的立場（辛辣な社会批判をくりひろげるにもかかわらず，現実の政治からは超然としていた。）は，こうした初期クェーカーの階級構成から説明出来る，と Cole は論じるのである。[21]

我々にとっては，Cole のこの分析は極めて説得的なものに見えた。しかし，ごく最近，Vann が Cole の分析を史料批判・史料操作のレヴェルで批判し，新説を発表した。

---

(16) A. Raistrick, *op. cit.*, p. 32. なお，クェーカーという語は，外部の者たちによる蔑称で，彼等自身はフレンズと称していた。

(17) Lancashire, Gloucestershire, Wiltshire, Bristol, London, Middlesex, Buckinghamshire.

(18) 表は5つにまとめられているが，紙面の制約のため，引用を控える。

(19) A. Cole, *op. cit.*, p. 116.

(20) *ibid.*, p. 117.

(21) *ibid.*, pp. 117—118.

Ⅲ

Vann の Cole 批判[22]の要点は，次の4つである。第一に，Cole の7つの地域の分析は，「寛容令以前の時期には，クェーカーの諸グループには，その社会構成においてラディカルな変化がなかった[23]」との仮設の下に，1688年までの時期を一括して行なわれているが，実は，「ラディカルな変化」が存在したこと。第二に Cole は季会の結婚登録簿に付された職業記載をそのまま利用しているけれども，この職業記載は全くあてにならないこと。第三に，Cole は季会の結婚登録簿しか利用していないが，その他にも利用すべき史料が残存しているのであり，これらを利用することによって，Cole の欠陥の第一・第二点をある程度克服できる。第四に，初期クェーカーにおける社会構成の特徴は，全人口の社会構成との対応の上ではじめて明らかになるのに，Cole はこの点に留意していない。

我々は，第四点については，Vann の分析にも疑念を抱くのだが[24]，他の三点についてはまことにもっともだと考えざるを得ない。

では，Vann の分析の方法とは，いかなるものか。まず，彼が Cole とは比較にならないほど多くの史料を利用していることは言うまでもない[25]。次に，彼は（Cole 批判の第四点に関する事であるが）比較すべき史料が残っている Buckinghamshire と Norfolk に分析対象地域を限定する。次に，（第二点に関して）彼は，社会層の範疇を設定した上で，史料を類別する。例えば，農業部門については，Gentlemem（法的に限定された階層ではないので，職業記載に Gentleman と記されている者および市長・治安判事等の職を保有する者お

---

(22) Cole 批判は，R. T. Vann, "Quakerism and the Social Structure in the Interregnum." *Past and Present*, No. 43. において詳しく展開されている。

(23) A. Cole, *op. cit.*, p. 101.

(24) 次節で触れる。

(25) R. T. Vann, *The Social Development of English Quakerism* 1655—1755 の巻末に32ページにわたって記された第一次資料の中身を見よ。

よび大学卒業者と軍隊における captain 以上の仕官[26]) Yeomen (自ら保有する土地を耕作・利用することによって主に生計をたてている者) Farmers (借地することによって主に生計をたてている者) Husbandmen (その他の農業従事者) と範略設定がなされている[27]。更に，彼は，(第一点に関して) 1662年から1740年までの七つの時点で，それぞれの地域についての社会構成を明らかにしようとしたのである。

では，Vann の分析の結果はいかなるものか。

<表2>は1662年におけるクェーカーの社会層分布を，1608年の Gloucestershire muster roll の職業記載から作成した社会層分布と比較したものである[28]。この表から，彼は次の二つの結論を導き出す。第一に，「クェーカリズムは創

<表2> 職業あるいは階層	Men, 20-60 in Glocs., 1608	Known Quakers in 1662		
		Bucks.	Norfolk	Norwich
Gentry, professional and official	3.0	7.3	7.4	6.3
Professional	0.2	3.6	1.9	—
Agriculture (laborers を含む)	46.2	45.5	35.2	—
Yeomen	6.3	27.3	20.4	—
Farmers	—	5.5	—	—
Husbandmen	23.5	1.8	5.5	—
Laborers and servants	15.7	7.3	5.5	—
Wholesale Traders[29]	4.2	25.5	18.5	12.5
Retail Traders	10.5	16.4	11.1	18.8
Weavers and woolcombers	13.5	—	16.7	43.8
Artisans, servants, and laborers	22.6	9.1	16.7	18.8

(26) *ibid.*, p. 61.

(27) 以上，*ibid.*, p. 65.

(28) *ibid.*, p. 71. なお表中の数字は，職業・階層の判明している者全員に対する各ランクに属する人数の百分率である。

(29) Wholesale Traders に含まれているのは，Clothiers, drapers, mercers, merchants, tanners, millers, maltsters と，これらの職業をもつ人の息子および兄弟である。

<表3—1> Buckinghamshire 職業あるいは階層	End of 1662	End of 1700	End of 1740
Gentlemen	4.0	2.0	0.7
Professional	2.0	0.4	1.3
Agriculture	25.3	24.6	22.4
Yeomen, farmers, graziers	20.1	12.5	13.8
Husbandmen and laborers	5.1	12.1	8.6
Wholesale traders	14.1	14.9	13.8
Retail traders	9.1	10.9	9.2
Artisans and laborers	5.1	10.5	11.8
Unknowm	44.4	38.7	41.4

<表3—2> Norwich 職業あるいは階層	End of 1662	End of 1700	End of 1740
Gentlemen	4.3	1.3	5.0
Wholesale traders	8.7	1.3	1.0
Retail traders	13.0	1.3	1.5
Worsted weavers	8.7	5.1	1.5
Woolcombers	21.7	18.7	17.6
Artisans and laborers	13.0	31.0	11.6
Unknown	30.4	41.8	67.3

<表3—3> Norfolk 職業あるいは階層	End of 1662	End of 1700	End of 1740
Gentlemen	3.3	0.7	1.8
Professional	0.8	—	0.4
Agriculture	15.7	10.3	6.8
Gentlemen and yeomen	10.7	6.5	5.6
Husbandmen and laborers	5.0	3.8	1.2
Wholesale traders	8.3	3.7	5.0
Retail traders	5.0	3.8	2.4
Worsted weavers	6.6	3.3	2.0
Woolcombers	0.8	2.2	2.6
Artisans and laborers	7.4	5.5	2.8
Unknown	55.3	72.8	78.0

始期においては，極めて高い層と極めて低い層を除いて，小ジェントリーから[30]少数の全くの不熟練労働者までに広がる全ての社会層から，その帰依者を引き出した[31]」ということ。第二に，Cole の言うプチ・ブル層の比率はごく低いのであり，初期クェーカーリズムを担った人々の中核はヨーマン層と Wholesale traders であったこと，そして，これらの層とジェントリー層から指導者層が出てきたと考えられること[32]。

<表2>を見るかぎり，以上の Vann の指摘は首肯しうるものであろう。では，彼によれば，クェーカーの社会構成はいかに変化していくのか。この点の分析は<表3>[33]によって明らかにされる。

職業不明の人の比率が高いので劇的な変化を跡づけることは出来ないと言いながらも，Vann は次の点を指摘する。すなわち，例えば，土地ジェントリー・専門職・Wholesale Traders の比率が減り，Artisans と労働者の比率が増している傾向に見られるように，「1670以降の帰依者は，最初期の帰依者よりも一般的により低い社会層に属していた[34]。」というのである。

こうして Vann は，Max Weber が指摘した・宗派の興隆期における縦割りの社会構成から後における横割りの社会構成[35]へという傾向が，初期のクェー

---

(30) 「クェーカーになったジェントルメンのほとんどすべては……小ジェントリーから出てきたと見られる。」(Vann, *op. cit.*, p. 63)

(31) R. T. Vann, *ibid.*, p. 73.

(32) *ibid.*, p. 71.

(33) <表3>は，*ibid.*, pp. 74—75. の表から作成された。表中の数字は，職業不明の者をも含めた全員に対する各ランクに属する人数の百分率である。

(34) *ibid.*, p. 78.

(35) 「もちろん，予言者的あるいは改革者的な強い宗教的興奮の諸時代は，貴族をも，またしばしばまさに貴族を，予言的・倫理的宗教信仰の軌道に引き入れた。というのは，そうした宗教的興奮はまさにあらゆる身分的・階級的な諸社会層を突き抜いて進むからであり，また貴族は通常俗人教養の第一級の担い手だからでもある。しかし，予言的宗教信仰の日常化が，貴族を，宗教的興奮にとりつかれた諸階層の世界からきわめて急速にふたたび分離するのが通例である。」(英訳・ウェーバー宗教社会論集・世界の大思想Ⅱ—7河出書房。p. 219)

カリズムにおいても見られる，というのである。[36]

Ⅳ

Vann の史料批判・史料操作の面での Cole 批判は確かに鋭いものであった。では我々は，Vann の分析を直ちにうけいれられるだろうか。「否」である。主要な理由は次の二つである。

第一に，Vann の表の中では「職業不明」の人の比率が多すぎるのである。不明の人が，40%～80%もいて，一体一般的な結論が導き出せるだろうか。それだけではない。「職業不明」の人々は，そのほとんどが貧しい人々であるはずである。だから，これらの人々の職業が明らかになるならば，Yoemen, Gentry, Wholesale Traders の比率は同じか低くなるはずであり，逆に，Husbandmen, Artisans, Laborers の比率はずっと高くなるはずである。

第二に，Fox の教説を最初に受け入れたのは北部の Seeker であり，17 世紀の末にいたるまで，北部が運動の中心であったのだから，Vann は北部の Friends の階層分析をこそ行なうべきだった。そればかりではない。北部の特に丘陵地帯は資本制的展開の遅れた地域であり，農民層分解も南部・東部・中部ほどには進行していなかったのである。従って，北部における階層構成は，Norfork や Bucks. とは非常にちがった結果を示すはずである。

以上が，我々が Vann の分析に疑念をさしはさむ理由であるが，特に第二点は更に大きな疑問をひきずり出すのである。つまり，Vann の分析はあくまでも宗教社会学的な分析であって，初期 Friends の政治的あるいは社会経済史的なコンテクストは Vann の視野から排除されてしまっているのである。

では，我々は Cole 的な視座を前提にすべきだろうか。これもまた「否」である。Cole の場合には，逆に宗教社会学的な視点が欠落している。[37] 例えば，議

(36) この Vann の分析に対しては，すでに，Hurwich による批判があるが，第一に紙面の制約のために，第二に Hurwich の批判自体特に優れたものではないため，省略する。Cf. Hurwich, J. J. and Vann, R. T.; "Debate, The Social Origins of the Early Quakers.", in *Past and Present*, No. 48, 1970.

(37) 宗教思想の考察から初期クェーカーの政治的コンテクストを追求したものは，Barbour. H,; *The Quakers in Puritan England*, 1964 であり，きわめてすぐれている。

会軍の陸軍大佐・治安判事・Bristol 市長を歴任した Gervase Benson が自称 Husbandman であり，それは彼が「全ての現世の肩書き」に反対したためであった[38]，という事態は宗教社会学的な視点なくしては理解できないはずである。

このようにして，我々はごく初歩的な・従ってまた・真に根源的な問題にたち帰ったわけである。

すなわち，一つの宗教運動にはそれ自体の固有の法則性がある。まずそれが明らかにされねばならない。しかし，この宗教運動は，一定の思想的・政治的・社会経済的状況の下で展開するのであり，だから，この状況の下でこの運動がいかなる意味を持つのかということが明らかにされねばならない。

この原則は，常に原則として掲げられるけれども，いまだかつて満足すべき成果が見られないというのは一体どういうわけだろうか。

しかし，論争史上明らかになった点もいくつかある。指導者層の階層構成とフレンズ全体のそれとは異っているということ，時代が下るに従って階層構成に変化が見られるはずだから初期フレンズを一括して扱うことは生産的ではないということ，資料に出てくる職業記載は必ずしも正しくないこと，地域的な差異を考慮に入れるべきこと，などである。こういった点をふまえた上で，上述の原則に立った更にすぐれた分析が望まれている。

論争は，ようやく端緒についたばかりなのである[39]。

(1972・3・24)

---

(38) Cf. Taylor, E. E.; *The Valiant Sixty*, 1947, p. 53.

(39) 本稿は，筆者の修士課程単位取得論文「裏切られた『クリストの王国』と，セクトとしての『フレンズ教団』の成立」の第一章第三節を要約し手を加えたものである。なお，カテゴリーの設定の問題が残されているが，これについては改めて別稿で触れたい。